

プール施設のバリアフリーのありかたについて

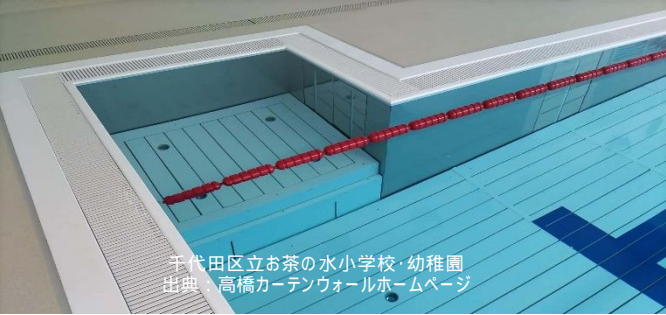
□ プールのバリアフリー、ユニバーサル対応について

公営プールには、市民の健康増進、レジャー・アミューズメント利用、競泳練習等の様々な役割に加え、一般利用者から、競技者、子ども、障がい者まで、さまざまな年齢層や障がいの有無にかかわらず、あらゆる人々が自由に利用できるプール整備が求められる。

ここでは、“誰もが利用しやすいプール”の整備にむけて、近年のプール施設のバリアフリー(ユニバーサル)対応の事例把握を行う。

□ 事例

小プール・サブプール 一般プールでは足が届かない小学校低学年程度を対象としたプール。水深は0.6～0.7m程度。 現施設の小プールは水深0.9～1.0m程度で小学校低学年児の利用は難しい。	 出典：板橋区立植村記念加賀スポーツセンタホームページ
歩行用プール 一般用プールの一部(2レーン程度)を歩行用として運用する事例に加え、専用の歩行用プールの設置や、一般用プールの一部を可動床として水深を1m程度にして歩行用レーンとして運用する事例もある。	 出典：出島屋内プールホームページ
幼児用プール 小さな子供との水のふれあいを目的としたプール。水深は0.3～0.5m程度。 屋内温水プールから直接利用できる外部に、幼児用プールのみ整備する事例もある。	 出典：杉並区大宮前体育館ページ
可動床 集客・収益向上、事故防止対策 水深を自由に設定する事で、一つのプールで一般利用者から、競技者、子供、障がい者まで、さまざまな年齢層、目的に応じた運用が可能	 筑西市立関城中学校 出典：高橋カーテンウォールホームページ

入水用設備(階段・スロープ) 軽度の障害や、下肢(かし)マヒ等の障害の方が入水するための階段、スロープ。可動床と合わせて仮設置する事例も多い。	
入水用設備 (リフト等) 車いす利用者や、下肢障害の方の入水をサポートするリフト。自由に場所を移動できる移動式プールリフトもある。	
車いす利用者用更衣室・シャワー 車いす使用者が利用できる更衣室。車いすのまま利用できるシャワー設備や、車いすに座ったまま手が届くロッカー等を整備	
家族更衣室(みんなの更衣室) 介助が必要な親子(異性)で利用できる個室の更衣室。単独での更衣室利用が困難な障害者を含め、多目的更衣室として整備する事例も多い。	
ジャグジー ジェット水流によるマッサージ効果や、温水に浸かる事による血行促進、リラクゼーション等の効果がある	
その他のバリアフリー対策 ・コースロープに手をかけて使用する視覚障害者のために、ウレタン製の柔らかいコースロープを使用。 ・他の利用者との衝突を防止するための専用レーンの運用。 ・プール用車いすや、入水時のサポートのためのマットの貸出し。 ・サポートスタッフやプールボランティアの協力体制	